

すいすいC&T工法

道路橋の大規模更新工事の工期短縮を実現

道路橋の床版取替工事の 施工合理性を追求

従来のループ継手*の課題（間詰部の鉄筋組立、コンクリート打込み、養生などの効率化）を解決するために、モルタル充填形式による新たなPC床版継手構造を開発しました。

本技術により、工程が約20%低減できる見込みです。

*隣り合うPC床版の突出部を突き合わせ、ラップしたループ鉄筋に主鉄筋を組んで間詰めコンクリートを打設する接合構造

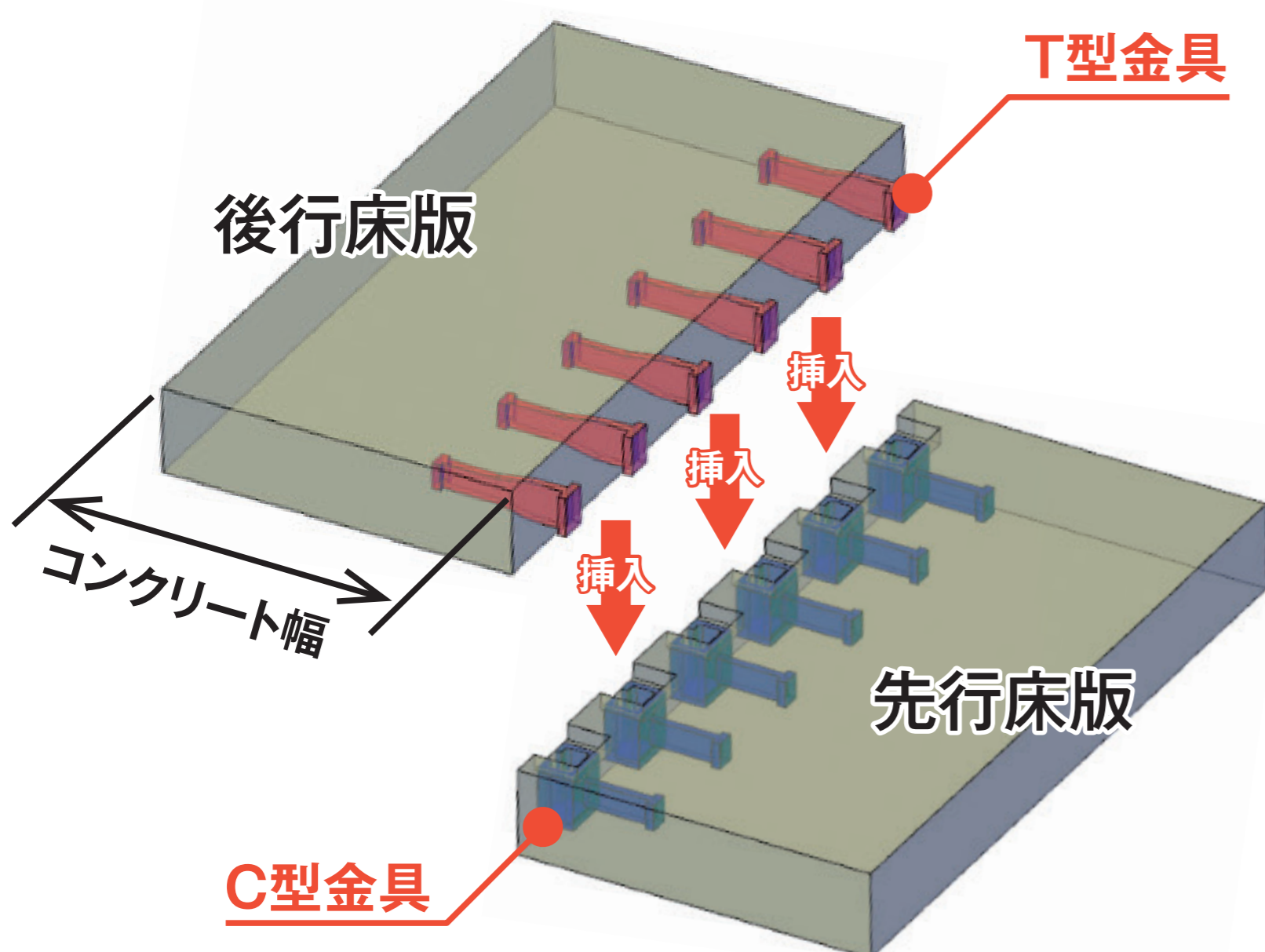


概要

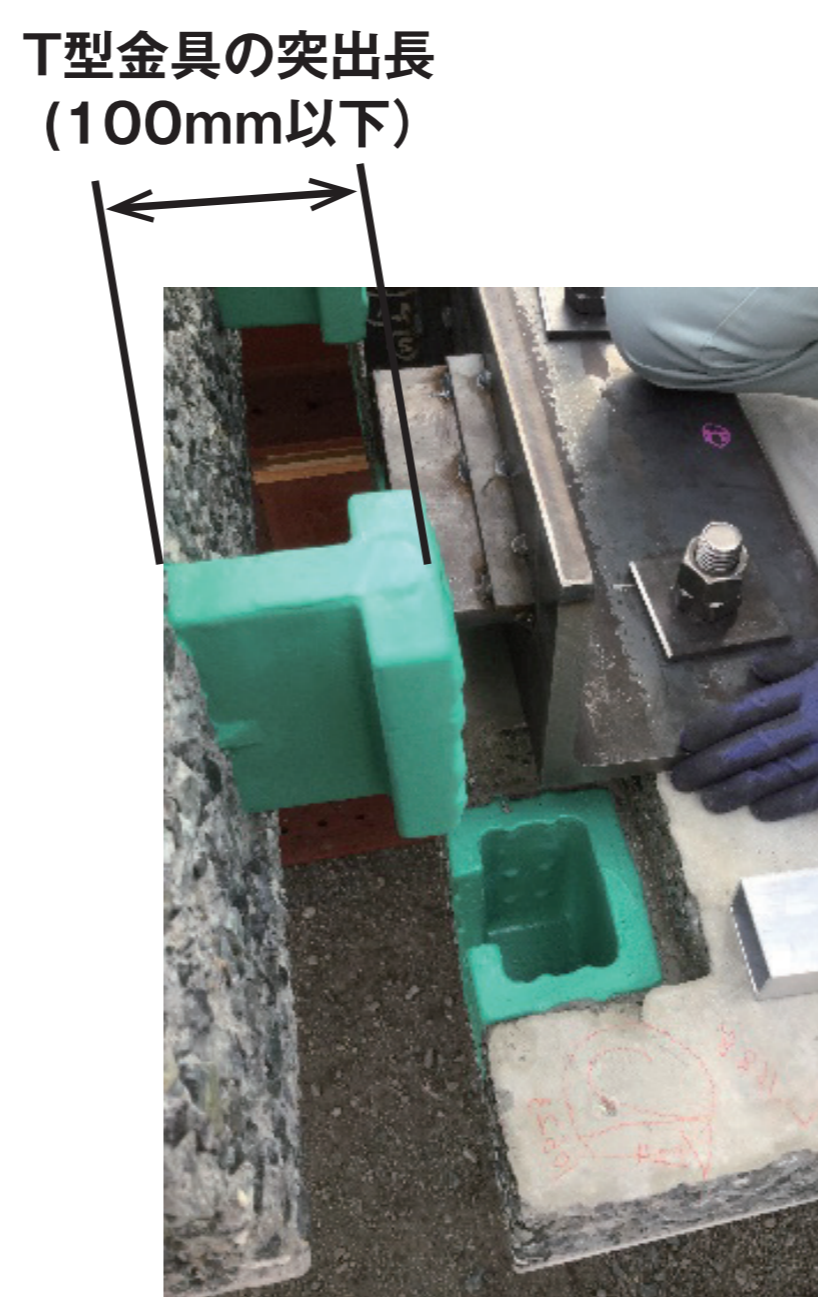
近年、道路橋の老朽化に伴い、傷んだ床版をより耐久性の高いプレストレストコンクリート床版へ取り替える工事が進められています。従来の施工方法では、PC床版を300～400mm間隔を空けて架設し、その間（間詰部）に鉄筋を組み立て、コンクリートを打ち込み、一定期間養生して一体化するという継手方法が適用されています。

当社は、上記継手方法を合理化するためにモルタル充填形式によるPC床版継手構造「すいすいC&T工法」の開発しました。本技術は、先行床版に埋設されているC型金具に後行床版に埋設されているT型金具を挿入し、間詰部にモルタルを充填して一体化させるシンプルな継手構造としています。

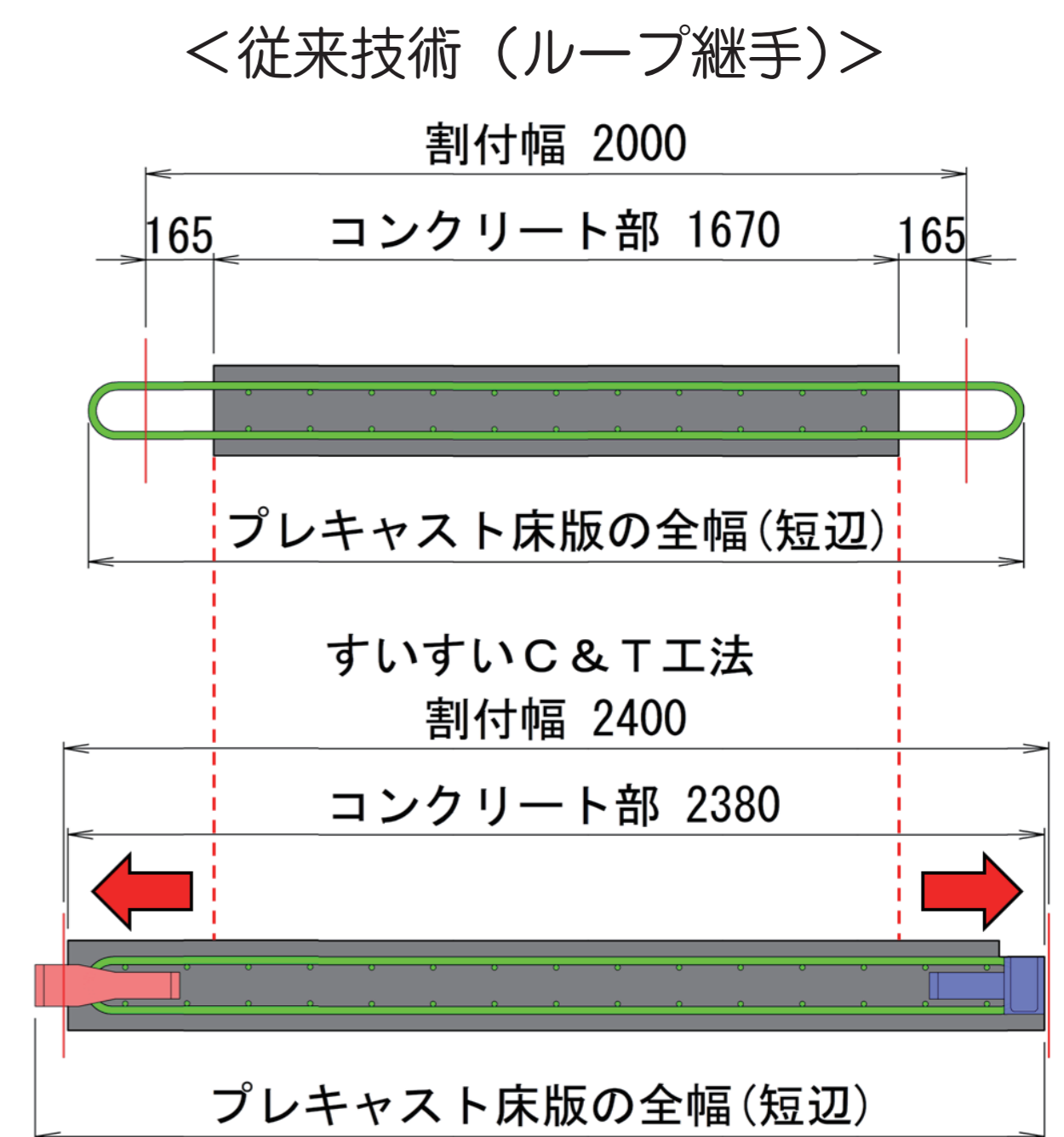
接合イメージ



接合状況



床版幅の拡大



導入のメリット

下記の特長により、1日あたりに進められる施工距離を延ばすことが可能になり、工期の短縮、そして通行止め期間の短縮を実現します。

- ① プレキャスト床版のコンクリート幅の拡大化
- ② 間詰部およびPC床版架設の作業時間の短縮